

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300446		
法人名	社会福祉法人 心愛会		
事業所名	地域密着型サービス事業所 ハーモニー湖南		
所在地	福島県郡山市湖南町三代字寺ノ前290		
自己評価作成日	平成28年8月	評価結果市町村受理日	平成28年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成28年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・三代小学校を改築した施設の為、近隣の方の馴染みがある建物となっている。
 ・開放感のある内部となっており、利用されているお客様は、ご本人のペースで過ごして頂けるようになっている。
 ・地域のとのかかわりが多く、湖南町のお客様や職員が多い為、顔なじみの関係が作れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 町内会に加入し、地域の行事に積極的に参加したり、同建物内の小規模多機能型居宅介護事業所と主催した行事「ハーモニー居酒屋」に住民の方を招き交流を図るなど、地域との気軽な付き合いを大切にしている。
 2. 旧小学校の建物を改築した広いスペースの中に、グループホームと小規模多機能型の事業所が併設されており、利用者や職員並びに家族などが相互に交流を図りながら、住み良い環境作りに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所に掲示し、毎日の朝礼で理念唱和を行っている。又、それに基づいた行動基準も唱和し、一日の目標を掲げ取り組んでいる。	法人の理念を毎朝ミーティングの中で唱和をし、法人が定めた20項目の行動基準の中から一つを選択し、その日の支援目標として掲げ実践しているが、事業所独自の理念は作られていない。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念を作り、管理者と職員はその理念を共有して、実践につなげて欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や催し等に積極的に参加し、利用されているお客様も一緒に参加できる場を作っている。又、町内会に加入し、地域の方との情報交換を行っている。	自治会に加入し、地域の祭りや環境美化作業などに積極的に参加し、交流を図っている。また、事業所内の夏祭りや芋煮会に招いたり、事業所内に併設されている、一般開放施設などでの交流も行われている。ボランティアや外食、買い物などを通しての交流もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議を活用し、ご家族や地域の関係者への支援について報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	区長会長、区長、地域包括支援センター職員等に、現在の事業所での現状を報告させていただき、問題点等があった時には助言を頂いたりしている。また、広報を通して施設の活動を報告し、また、施設利用者の利用状況や行事予定なども報告させていただき、会議メンバーからの助言を頂いている。	運営推進会議は定期的開催され、利用者状況や事故報告などを行い、メンバーから意見を頂き、事業所の運営に反映されているが、自己評価や外部評価結果の報告、防災に対する地域との連絡・協力体制などについて話し合っていない。	自己評価や外部評価結果などの報告や、防災に対する地域との協力体制の有り方についてもメンバーに意見・助言を頂き、サービスの向上に活かして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政センター、介護保険課、長寿福祉課の担当者へ随時困りごとや相談に乗って頂き、連携を図っている。	事業所の運営状況など、定期的に町担当者に報告したり、介護保険制度に関わる保険料請求手続きなどについて、相談を行うなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置している。身体拘束廃止委員会が中心になって、勉強会や日常の業務で身体拘束となっていないかの話し合いをしている。	身体拘束廃止委員会が中心となって、定期的に勉強会を開催し、日々の業務の中で拘束がないか話し合い、身体拘束のない支援に努めている。また、家族には身体拘束のリスクについて報告し、都度理解を得ている。玄関の施錠は夜間以外はしていない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部への研修や、内部での研修に職員は参加し、高齢者虐待防止に日常から気配りをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や法人のマニュアルで学んでいる。必要があればご家族や地域の機関、地域の方々との話し合いを持つ支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に当事業所の事を知って頂き、利用されるお客様やご家族に十分説明し、ご理解を頂いてから契約の締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用されているお客様やご家族等から意見や要望があった場合には、直ぐに事業所内で話し合いを行い、運営に反映できるようにしている。	利用者からは日々の関わりの中で、家族からは面会時や運営推進会議の中で、相談や要望を聞いて、職員間で話し合いを行って、運営に反映させている。また、家族アンケート調査を実施して、意見や要望を把握している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの運営に関する要望や提案を毎月の会議やミーティング等で話せる場を作っている。又、年に2回、本部との面談があり意見を言える機会がつくれている。	管理者は、毎月の会議やミーティング、個別面談を実施して意見や要望を聞いている。また、日々の業務の中でも声掛けを行っている。会議の中では、勤務形態のあり方や委員会などの担当の見直しなどの要望があり、それらの意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得に向けた支援や、法人内イベント等を通し、やりがいを持って働けるよう努めている。 職員個々の状況に合わせた就業時間を設定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の教育部門にて、職員一人一人の現在の状況にあった研修を受けられる機会が作れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員に研修を通して様々な事業所の職員等と交流する機会を作り、事業所のサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回のアセスメントを行い、今必要としているものを見極め、利用されるお客様の要望に応えとともに、お客様のその人らしい生活に寄り添いながら、信頼関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在必要とされているお客様の要望とご家族様の要望を共に確認し、不安な事がある時は、一緒に考え困りごとが解消できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回のアセスメントを行い、今必要としているものを見極め、今必要なものから支援を行い、利用されるお客様の出来る力を継続できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用されるお客様の今までの経験などを活かして、役割を持っていただき生活して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	.. ご家族の不安に思っている事が少しでも解消して頂けるように、ご本院様の状況を密に報告し、今の状況を知って頂くようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と関わる機会をつくり、家族の関係性が継続できるようにしている。また、地域の方と交流できる行事やイベントを開催し馴染みの関係が継続できるようにしている。	これまでの地域との関係が継続するよう、外食や買い物、近隣への外出などの支援をしている。また、家族の協力を得ながら、彼岸やお盆の季節に一時帰宅し、家族と一緒に過ごしたり、外食や買い物などの外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションへ積極的に参加して頂く機会を作り、お客様同士の交流を密に行っている。また、小いぼ多機能型居宅介護のお客様とも交流の場が作れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談等を受けた時には、これまでの関係性を継続し、必要に応じて相談・支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様担当職員を中心にお客様の希望や要望をその都度確認し、その人らしい生活を送れるように支援・検討している。	食事や入浴支援などの中で、気軽に話し合える環境作りをして、それぞれの思いやどう暮らしたいのかなど、把握に努めている。思いを発せない場合は、表情や行動から利用者の思いを読み取り、日々の支援や介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントで確認しきれなかった生活歴や環境を、日々の生活の世間話で確認してこれまでのお客様の暮らしを把握し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の身体状況や精神状態を考慮して、お客様らしい生活が過ごせるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状況を本人・家族・職員で共有し、お客様本人が出来ている事を継続できるように、今の課題を共に考え、その都度介護計画へ反映させている。	本人や家族と話し合い自立支援のための課題を把握し、介護計画を作成している。また、状態が変化した場合は、アセスメントやモニタリングなどを実施して、現状に合わせた介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、お客様の「いつもと違う」が職員間で共有できるように、その都度記録に残して申し送りを行い、実践や介護計画に反映している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用しているお客様や家族の状況など、それぞれのニーズに対していかなるときも対応できるように柔軟な姿勢をもち取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報等を参考にし、利用しているお客様が参加できるものを選定し、積極的に参加できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様それぞれのかかりつけ医と連携を取りながら、突然の体調不良時にも連携が取れるようにしている。	入居時に本人及び家族の希望する医療機関について話し合いを行っている。かかりつけ医への受診支援は家族が行い、事業所は「生活状況報告シート」により医師への情報提供をしている。また、協力医による往診も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の状態と変化があった時には、直ぐに看護師へ報告し、必要があればかかりつけ医に相談し連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護サマリーを作成し、医療機関に持ち寄り、また、退院時には家族との話し合いを計画作成担当者で行い、併設事業所の看護師の助言ももらいながら本人の情報を把握し、家族との相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、ご家族様と密に話し合いを行い、不安が無いように話し合いをさせて頂いている。事業所で出来ることを明確にし、利用しているお客様やご家族に不安とならないようにしている。	重度化や終末期のあり方について、入居時に事業所として対応できることを説明し理解を得ている。また、本人や家族の状況の変化のたびに、不安とならないよう話し合いを行い、同意を得ながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から、急変や事故発生時に備えて、必要物品の場所や対応方法について勉強会や日々の業務の中で確認をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間時に問わず利用者が避難できるよう、避難訓練を行い、職員が対応できるよう確認している。	火災を想定した防災訓練を年2回実施しているが、地震や風水害を想定した訓練は行っていない。また、地域住民との協力体制や訓練への参加要請もしていない。非常時食料や備品は準備はしている。	地震や風水害を想定した訓練も行うとともに、地域住民との協力体制や訓練への参加要請をして欲しい。また、自衛消防組織について職員に周知徹底を図って欲しい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様一人一人の考えを尊重し、その人の誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。	利用者一人ひとりが歩んできた歴史を理解し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。また、接遇の研修にも力を入れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からのコミュニケーションを通し、利用されているお客様の希望や考え、思いを把握を行っている。また、衣服の選択、おしゃれ、外出レク等を通し、できるだけ自己決定ができるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での決まった時間(食事・入浴等)はあるが、利用されているお客様の希望に応じて時間の変更等を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えや、外出時の衣類などご本人の希望を確認して一緒に選んだりしてる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	毎食時職員は、お客様と同じ時間に食事を味わうようにしている。食事が楽しい時間となるように心がけている。また一緒に摂取する事で、お客様の好き嫌いも確認できる。	調理の下準備や食後の片づけを利用者と職員が一緒に行っている。また、利用者と職員が同じテーブルで、会話をしながら楽しく食事をしている。利用者の嗜好については、食事の残量などから把握し、栄養のバランスを考慮し採り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様の今までの生活を理解し、食事や水分摂取の習慣を認識し、一人一人に合った支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お客様の出来る力を引き出せるように自分で行えるお客様に関しては、自分で行えるように声掛け介助を行っている。また、自分で行える方でも、口腔内の状況をその都度観察を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄委員会が中心となって、排泄状態の状況を確認し、その都度、お客様一人一人に合った排泄の支援を行っている。	日常生活記録から利用者個々の排泄パターンを把握し、プライバシーを守りながら的確に声かけ、誘導を行っている。また、排泄委員会が中心となって、排泄の自立に向けた支援方法や、オムツなどの使用方法について話し合われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から排便状況の確認を行っており、主治医と連携を図りながら、便秘傾向にあるお客様に関しては、排便のコントロールを行っている。また、腹部のマッサージや水分摂取を進めて薬に頼らないように心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お客様の希望や習慣を考慮して楽しく入浴できるように心がけている。お客様の希望に合わせて入浴の曜日変更や時間帯を変更等もやっている。	大小二つの浴室があり、利用者の好みに応じて対応している。入浴の日時や回数は、利用者の希望に添って支援している。また、楽しくゆったりした入浴ができるよう、ゆず湯や菖蒲湯なども採り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の生活習慣を把握して、お客様の休息の時間(昼寝の時間等)を選定しながら、日中の活動を多くし、夜ゆっくりと眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様の内服状況の変更時は、職員間で共有し、どんな効果があるかをその都度、併設事業所の看護師より確認をして対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様一人一人の嗜好や楽しいと思う事を見つけ、個別に支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お客様の希望を確認しつつ、季節ごとに外出の機会を作っている。また、施設の外を散歩をする機会を作りながら、お客様に四季を味わっていただけるようにしている。	事業所周辺への散歩や買い物、季節毎に名所地に出かけるなど、利用者の気分転換やストレス解消、地域住民とのふれあいを考慮しながら支援している。また、家族の協力を得ながら、馴染みの場所に出かけたり、盆や正月には一時帰省している利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様の能力を確認し、外出時等ご家族よりお金をお預かりし、買い物や飲食時に使える機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様が家族や友人などに連絡を取りたいと希望があれば、事務所の電話を利用し、自由に連絡ができるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるよう、施設内の飾り物を変えたり、お客様の作品や写真などを展示したりし、親しみやすい環境作りを心掛けている。	居間(食堂)や廊下などに、四季を感じさせる手工芸品や、懐かしい俳優やスポーツ選手の写真が飾られ会話がはずむように配慮されている。また、余暇委員会が中心となって、より良い共用空間の環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースではテーブルの配置を工夫し、賑やかに過ごせる場所や、静かに過ごしていただける場所を配慮し、お客様に居心地良く過ごして貰えるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	お客様に合った居室を検討し、洋室でもベッドや布団など本人に確認し、希望や状態に合わせて利用していただいている。昔から使用しているなじみの家具など持ってきていただいている。	居室は家庭の延長を重視し、ベッドのみ事業所で用意している。本人や家族の意向に沿って、整理タンスやテレビ、その他思い出の品々が持ち込まれ、落ち着いて過ごして行ける工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室などが分かるよう目印を作り、主体的に動くことができるような環境作りを心掛けている。		